

令和5年度学校評価報告書

令和6年（2024年）3月8日

1 本年度の重点目標

『もっとやれる』に気付く」学校として、生徒の可能性を信じ、引き上げる教育を推進し、北海道一の進路多様校を目指す。	
(1) 学習指導	授業の工夫改善、観点別学習状況の評価の推進、ICTを活用した授業の推進
(2) 生徒指導	生徒理解の充実、規範意識の醸成、生徒会活動や部活動の充実、校則等の積極的な見直し
(3) 進路指導	進路情報の適切な提供、キャリア教育の推進、進路活動の環境整備の推進や講習等の改善充実
(4) 健康・安全指導	健康増進の意識の醸成、教育相談の充実、清潔で安全な環境づくりと意識の醸成、防災教育の推進

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育課程・学習指導	・学習指導要領の年次進行にあわせて、対話的な活動を取り入れる教員が増えるなど改善が図られている。 ・年次進行で観点別学習状況の評価を実施するとともに、評価の総括方法などについて随時見直し、改善を図ることができた。 ・ICT環境の整備を進め、個々の生徒に応じた学習指導を行っている。	・改善を図りながら進めていくことで、いいものになっていくよう期待します。 ・一方通行ではなく対話的な活動を取り入れるなど、各年次の学習指導要領の進行にあった授業の実践や観点別学習状況の評価の実施において、引き続き評価の総括方法等の見直し改善を行っていただきたい。
改善方策	・授業の工夫・進歩については校外実施の研究会に積極的に参加するとともに、校内で互いの実践例を交流するなどして今後も進める必要がある。 ・観点別学習状況の評価については引き続き全教科で研修しより良いものにしていく必要がある。	
生徒指導	・面談週間を設けたり、全員面接を実施するなどして生徒理解を深め、生徒との信頼関係に基づく生徒指導を行うことができた。 ・法によるいじめの定義について教職員が理解を深めるとともに、適切に認知し、対応した。 ・社会のルールを守ろうとする意識を高めていく教育が行われている。また、いじめやトラブル等の未然防止として、自分や他者を尊重する教育が行われている。 ・生徒心得のについて全面的に見直すとともに、改正の手続きについても明確にした。	・教室に入れない子や学校に來れない子について、親身になって対応している。 ・社会のルールは、学校・家庭・地域が教えることで、学校がすべてではない。南高校はよく指導していると思う。 ・いじめは、起こったときの対処や指導が大切。 ・校則の見直しは、多様化の社会なので、子どもたちのために今後も考えていかなければならない。時代に即した生徒指導となっているのか、常に検証していただきたい。 ・生徒と家庭、教職員が連携して自立した人間を育成することを期待する。
改善方策	生徒理解を深めるために、より多くの教員が関わる全員面談を引き続き実施する。生徒心得については、R5年に制服の移行が完了し、1人一台端末は全年次まで進むことから、引き続き見直しを行う。特に、オンライン学習システムを導入し、一人ひとりの学力や進路希望に応じた取組を充実させる。	
進路指導	・生徒向け、保護者向けそれぞれのガイダンスを実施するとともに、保護者が進路資料に触れる機会を増やすことができた。 ・総合的な探究の時間におけるTGP等の探究活動において社会との関わりなどを考える時間を充実させることができた。また、小・中学校や行政機関へのインターンシップ、看護学校等の見学などを実施した。 ・講習を平日に定例化するなど実施形態を整えて実施できた。自習室の個別ブースの整備や面談室のWifi環境整備を行い、生徒の進路活動における使い勝手の向上を図ることができた。	・引き続き情報の提供の充実を保護者は望んでいます。 ・個々の生徒が進路希望を早期に見つけることができ、どのようなキャリアが必要か適切な進路指導を実行していただきたい。 ・講習の実施形態や使いやすい自習室の整備を継続して行って欲しい。 ・TGP（苫小牧元気プロジェクト）の取り組みを評価する。 ・国民スポーツ大会の放送局、ボランティア部、インターハイの当番校などの生徒の活躍は外部からの評価が高く、市としても感謝している。
改善方策	進路ガイダンスに関わり、生徒の科目選択の時期や選択に係る説明について保護者が参加する機会を確保するなど、引き続き情報提供の充実を図る。今後も探究やボランティア等、生徒たちが地域で活動する機会を増やしたい。	

健康・安全 指導	・スクールカウンセラーについては、道の配分に加えて私費会計の協力もいただき、通年で多くの生徒に対応していただくことができた。 ・全教員による全員面接を実施し、生徒の不安や願いなどを集約してその後の指導に生かすことができた。 ・夏の暑さ対策のため、送風機を設置した。感染症対策のための換気、冬季の生徒たちによる保湿活動など適切に行うことができた。 ・1日防災学校として、市と近隣町内会と連携して防災に関する講演会や防災用品への理解を図り、津波を想定した避難訓練を行った。	・トイレが清潔であることは言うまでもないが、将来的には、トイレ環境の改善を望む。 ・不安定な社会情勢の中、支援が必要な生徒がますます増えると思われるが、教職員と保護者がよく連携し、スクールカウンセラーなど専門家と協力して充実した支援をしてほしい。 ・校舎・施設の老朽化で維持管理が難しく、予算とのバランスがありますが何とか校内の生活環境の改善に努力してほしい。 ・市や近隣町内会との連携で防災意識を向上させ、津波や川の氾濫に備えて避難訓練を行ったことは大変意義がある。
改善方策	・全年次において、不登校傾向の生徒への対応が課題となっている。スクールカウンセラーの買う長や教員と生徒、生徒同士の対話の機会の充実を図っていききたい。 ・防災については、引き続き地域との連携を進めていく必要がある。	
その他	・3回目のオーストラリア語学研修を実施した。また、道教委のカナダ・アルバータ州との交換留学を実施した。	・語学研修はとてもよい取組である。参加者が増えることを望む。 ・生徒が地域社会に役立ったと実感できる機会を増やしてもらいたい。 ・保護者への学校生活の効果的な情報公開を図って欲しい。
改善方策	・英語教育の充実を図るという教育課程編成の一環として、今後も継続する。	